

20051

快適な検査環境を目指した循環器専用血管撮影室の構築

【背景・目的】装置更新に際し、ワークスペース・スタッフ動線について再考し、スムーズな検査環境の構築に取り組んだ。従来撮影室の問題点と改善について報告する。**【方法】**問題点の抽出は、ブレインストーミングを用い、多くの意見を集約できるよう努めた。**【問題点】**従来撮影室における問題点を抽出する。1) 患者出入口は狭く、体外循環や呼吸器を装着した状態での入退室はストレスの多いものであった。2) スタッフ入室口は 1 か所であり各職種の導線が重複していた。3) 操作室のモニタレイアウトは必要な情報が集約されておらず、情報の収集には時間を要していた。4) 検査室内にはデバイスが多く保管されており、ワークスペースの狭小化のみならず、X 線管球に近接した環境での業務を強いられていた。**【改善策】**1) 患者出入口は、重症患者の受け入れ・搬送に重点おき、280cm の開口を設けた。2) スタッフ入室口は 2 か所とし、ワークスペースや動線が重複しにくい構造とした。3) 操作室のモニタ出力は 2 か所とした。指導医や研修医・学生が一同に供覧できるような構成とした。さらに、汎用大型モニタを配置することで情報の一元化をはかり、検査室内の状況を瞬時に把握できるようにした。4) 検査室外にデバイス保管スペースを設け、ワークスペースの増大を図るとともに移動式備品カートを導入しさまざまな手技に対して迅速な対応が行えるように配慮した。**【結果】**循環器専用血管撮影室の利便性は向上し円滑な検査環境を構築することができた。